

38 タリウム (Tl)

38 タリウム(Tl)

38.1 マテリアルフロー分析

タリウムは、工業生産としては銅、鉛、亜鉛などを硫化物鉱から製錬する際に生成する尾鉱、残渣、抽出液、煙灰などから副産物として回収されるのが一般的である。亜鉛精鉱中には 2g/t 程度、銅転炉灰には約 10g/t のタリウムが含有しているとされる。

我が国のタリウムの供給状況は、1979 年まで全量を輸入に依存していたが、1980 年代に非鉄金属製錬メーカーが製錬過程の副産物として金属タリウムを生産するようになった。それに伴って 1988 年以降は輸入がストップしていた。しかし最近になって輸入が再開されており、輸入量は、2004 年が 15,450kg、2005 年が 9kg、2006 年は 234kg、2007 年は 618kg であった。そのうちのほぼ全量がカザフスタンからである。国内生産については公式統計が無く、現在の正確な生産量は不明であるが需要の減退等により非鉄金属製錬メーカーの生産はほとんどなくなっているとみられる。

表 1 タリウムの輸入状況

(単位:kg)

輸入品目番号	年	1988~2002	2003	2004	2005	2006	2007
8112.51	タリウムの塊粉	-	-	15,450	-	211	618
8112.52	タリウムのくず	-	-	-	-	-	-
8112.59	その他のもの	-	2	-	9	23	-
合計		-	2	15,450	9	234	618

(出典:財務省通関統計)

タリウムの中間製品は、金属タリウムとタリウム化合物である。金属タリウムとしては銀、鉛及び水銀との各種合金の原料となっており、この場合のメタル純度は、一部 4N クラスがあるものの、現在、大半が 3N クラスとなっている。タリウム化合物は、ヨード、ブロム、酸素、フッ素、硫酸、蟻酸、マロン酸及び硝酸等との化合物であって、形状としては単結晶が一般的で、その他に溶液のものがある。

最終製品としては、タリウムは毒性が強いので、従来は化学薬品として少量使用される以外は光学レンズ向けと殺鼠剤・農薬(硫酸タリウム)に利用されていた。

最近では、金属タリウムの場合、水銀との合金の融点が -60°C という特色を有することから、極地の温度計やスイッチとして用いられるほか、銀との合金が耐食性合金に、また鉛との合金が特殊ヒューズに使われているが、用途が限定されているため使用量は少ない。

化合物の主用途は、高屈折光学ガラス向けの硝酸タリウムあるいはフッ化タリウムである。また硫酸タリウムは溶液であるが、それを利用した殺鼠剤は一般的には固形粒状のもので、一部に液状のものがあり、硫酸タリウムを十分の数%~数%含む。他にタリウムの硫化物を添加した NaI 結晶が赤外線感知力を向上させる特性を活かし、赤外線センサーとしての用途が出始めている。さらに超電導材料のほか、レーザー用光ファイバー、光通信ファイバー、放射線シンチレータ、触媒などの用途について、検討が進められているものあるいは実用段階に至って需要につながっているものがある。

タリウムの需給については公式統計が無いため推定値であるが、表 2 に分野別の需要量を示す。2001 年 3 月の鉱物資源マテリアル・フロー調査で記されている 1986 年の需要に比較すると、2004 年の需要は研究開発用途などにより増加したものの、2005 年以降は減少し、1986 年を下回る規模となったと推測される。

表 2 タリウムの国内需要

(単位:kg(マテリアル量))

年	1986	2004	2005	2006	2007
タリウム合金類	少量	少量	少量	少量	—
タリウム化合物					
ヨードタリウム、ブロムタリウム	少量	3,600	少量	少量	—
硫酸タリウム	200	1,200	300	300	—
酸化タリウム、フッ化タリウム、硝酸タリウム	3,000	31,200	1,500	300	—
その他タリウム化合物	少量	少量	少量	少量	—
タリウム化合物計	3,500	36,000	2,000	800	—

(出典:日本メタル経済研究所)

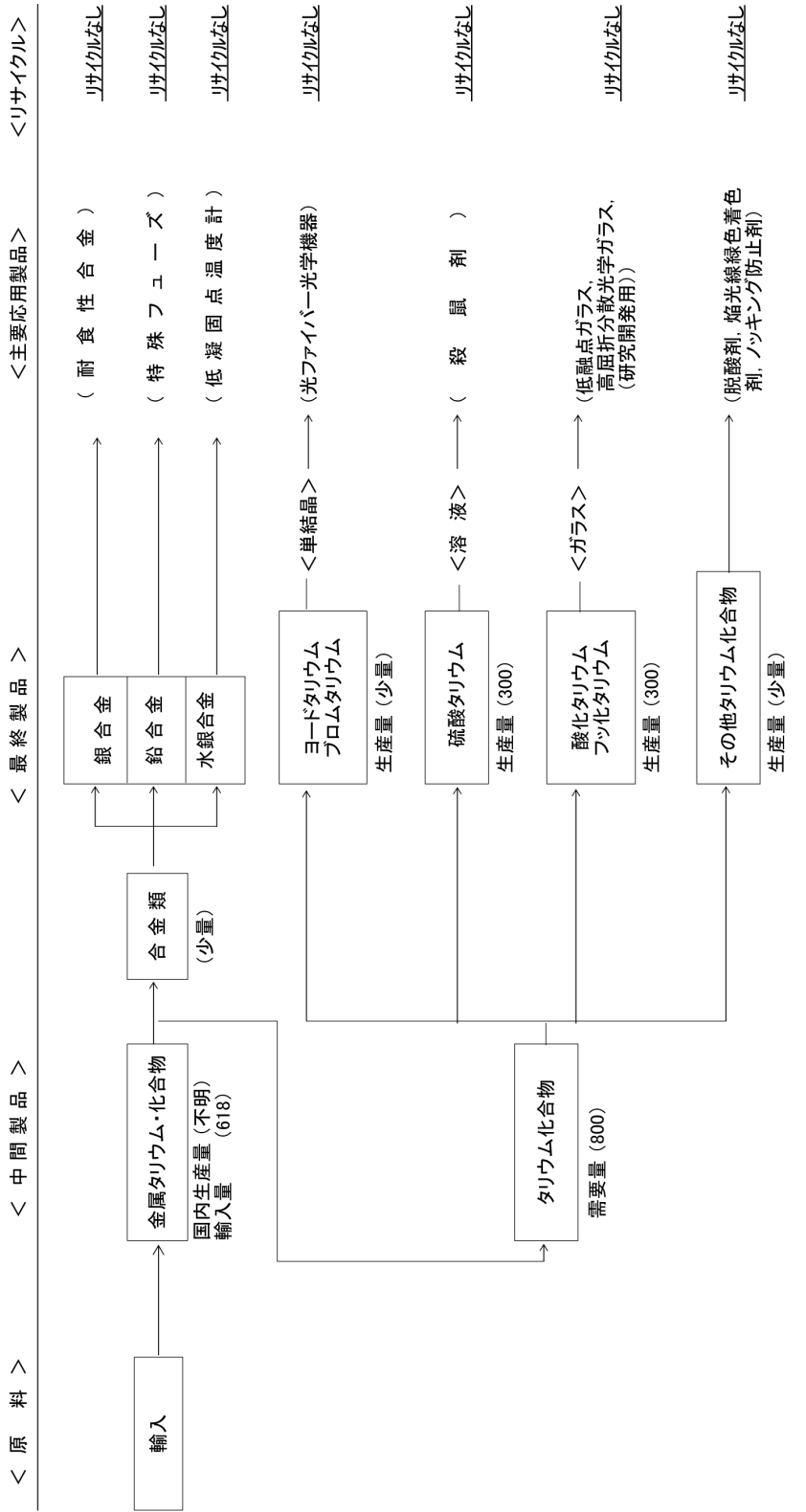
我が国にはタリウムの生産者はなく、また企業による海外投資も行われていない。

38. 2 リサイクルの現状と評価

現状では、タリウムの回収を目的とした応用製品のリサイクルは行われていない。現在の用途も限定されており、資源的には銅、鉛、亜鉛等ベースメタルの製錬副産物として産し、供給上の問題が少ないこともあって、リサイクルの対象にはなりにくい。

タリウム(Tl)

2007年ベース、最終製品は2006年
量の単位: マテリアル量kg



1. 鉱石埋蔵量(Reserves): 380t (USGS: MCS 2008)
2. 細分

銅乾炉灰	10ppm	錫合金	10~22%	錫合金	10~22%
酸化鉛(乾)	244	ヨドタリウム	91.5%	鉛合金	20~65%
亜鉛精鉱山	2.2	フッ化タリウム	82.0%	水銀合金	8.5%
		ヨロムタリウム	71.9%		
		硫酸タリウム	81.0%		
3. 出典

Mineral Commodity Summaries 2008、他
その他は事務局推定

タリウム(Ti)

リサイクルの現状

(2006年ベース)

主な応用製品	利用形態	使用済み品の存在形態・量		リサイクル形態			リサイクル 現状評価 (A~G) (注③)	備考 (注④)
		形態	量(注①)	リサイクルの 実態	リサイクルのサイクル (注②)	リサイク ル率		
殺鼠剤	固形粒状物 主成分： 硫酸タリウム 殺粉，色素 Ti:2.4~0.81% 液状物 主成分： 硫酸タリウム 水分，色素 Ti:1.6%	同左	(300:推定)	リサイクルなし	—	0%	A, G	毒性物質
高屈折光学 ガラス	ガラス/レンズ片 組成：不明	同左	(300:推定)	リサイクルなし	—	0%	B, E	
光ファイバー	結晶/ファイバー葛 組成：不明	同左	(少量)	リサイクルなし	—	0%	B, E	

(注)①量の単位：

()内は使用量 純分 kg
その他は発生量 純分 kg

②サイクル：

()内は推定使用年数
その他は実リサイクル年数

③現状評価：

A. 応用製品が消耗品である
B. 添加剤として使用されている
C. リサイクルの流通システムがない
D. 効果的なリサイクル技術がない

E. 経済性がない
F. 需要開発が十分にされていない
G. その他

④リサイクルのボトルネックと、解決の難易度
毒性，保管の危険性の有無など